

令和3年度 学校推薦型選抜（I型）

小論文（環境学部） 出題のねらい

現在、プラスチックによる海洋汚染は地球規模の環境問題となっている。この問題の解決策として、現行のプラスチックを生分解性プラスチックに置き換えるアイデアがある。しかし、生分解性プラスチックに置き換えても多くの課題が残ることを本文から理解し、普段の生活でもプラスチックゴミを減らす心がけが重要である点を改めて認識させることをねらいとする。

問1

生分解性プラスチックのリサイクル上の問題点について、本文中から適切な箇所を拾い上げることができるかを問う問題。問題下線部のあとに続く文章を150字程度にまとめられれば得点となる。

問2

バイオマスプラスチックは焼却しても地球温暖化にはつながらない理由を問う問題。本文中にある「植物原料」、「短期間で再生」、「カーボンニュートラル」といったキーワードを使って150字程度で説明していれば得点となる。

問3

プラスチックによる海洋汚染を解決する方法について、自身の考えを問う問題。海洋プラスチックが問題化した原因は、分解しないプラスチック製品が増えすぎたことが根本にあることを理解していることが重要である。従って、生分解性プラスチックに替える以外の方法として、社会一般的なゴミ問題と同様に、プラスチック製品の使用そのものを減らす「リデュース」を意識した「方法」について論述されているかが得点のポイントとなる。加えて、本文にあるプラスチックのマテリアルフロー全体を通して素材を使い分けることについても言及していれば加点となる。